

箕面市の中学3年生の英語力 英検3級相当以上の割合が 79.7% !

～全国平均 42.6%を大きく上回る結果となりました～

平成31年(2019年)4月24日(水)

箕面市では、平成29年度より毎年、市内の公立中学校3年生を対象に、英検 IBA を実施しています。平成30年度は、英検3級相当以上の英語力を有する中学3年生の割合が 79.7% という、非常に良好な結果となりました。この結果は、「英語教育実施状況調査」における全国平均(42.6%)を大きく上回り、他の自治体と比較しても突出しています。

更に、英検準2級相当以上の英語力を有する中学3年生の割合は 37.6%であり、高校生の全国平均(40.2%)や大阪府平均(40.4%)に迫る結果となりました。

箕面市では、全公立小・中学校の全学年で、毎日英語の授業を実施しています。また、全校に外国語指導助手(ALT)を配置し、子どもたちがネイティブスピーカーと気軽に英語で話せる環境を整えており、このような取り組みが成果として表れた結果となりました。

今年度もALTを増員し74名体制に拡大することで、更なる英語力の向上をめざします。

1. 「英検 IBA」の結果について

箕面市では、平成29年度より毎年、市内の公立中学校3年生を対象に、英検 IBA※を実施しています。平成30年度は、英検3級相当以上の英語力を有する中学3年生の割合が 79.7%という、非常に良好な結果となりました。

この結果は、「英語教育実施状況調査」における全国平均(42.6%)を大きく上回り、大阪府平均(45.3%)、都道府県トップの福井県平均(61.2%)、政令指定都市トップのさいたま市平均(75.5%)も超え、他の自治体と比較しても突出しています。また、前回の箕面市の結果が 75.2%であったことから、今回大きく英語力が伸びたことが分かります。

更に、英検準2級相当以上の英語力を有する中学3年生の割合は 37.6%であり、高校生の全国平均(40.2%)や大阪府平均(40.4%)に迫る結果となりました。

箕面市では、平成27年度から全公立小・中学校の全学年で、毎日英語の授業を実施しています。また、全校に外国語指導助手(ALT)を配置し、子どもたちがネイティブスピーカーと気軽に英語で話せる環境を整えており、このような取り組みが成果として表れた結果となりました。



※ 日本英語検定協会が実施している、英語能力を判定することができるテストです。

2. 英語教育の取り組みについて

(1) 公立小・中学校の全学年で毎日英語の授業を実施

公立小学校の6学年では週1回の45分授業と週4回の15分学習・公立中学校では週4回の英語科の授業と週1回の英語コミュニケーション科の授業を行い、全9学年で毎日英語の学習を行ってきました。

今年度からは、小学校5・6年生において、週1回の45分授業を週2回に増加します。
 平成29年度からは、就学前英語教育も開始し、公立の保育園と幼稚園へ月2回程度の頻度でALTを派遣しています。また、私立の保育園と幼稚園についても、希望があれば同じく月2回程度派遣しています。

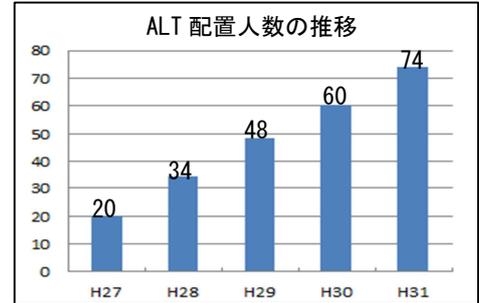
(2) 外国語指導助手(ALT)を独自に配置

現在、箕面市には60人のALTが勤務しています。2学期からは、ALTを74名体制に拡大し、公立中学校においては各学年に1名ずつ、公立小学校においては2学年につき1~2名ずつ配置します。

小学校の授業では、1クラスを3~4グループの少人数に分け、各グループにALTを1人ずつ配置することで、子ども一人ひとりがALTと1対1でやりとりできる機会を確保しています。

中学校では、子どもたちが学んだ英語を使える機会をより多く持てるよう、英語コミュニケーション科の授業だけでなく、英語科の授業にも積極的にALTが参加しています。

また、授業中はもちろん、休み時間や学校行事などでも、子どもたちがALTといつでも気軽に英語で話せる環境を整えています。



少人数グループでの授業

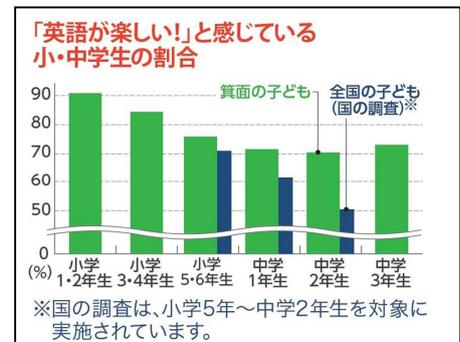


ALTとの課外活動(縄跳び)

3. 中学生の7割以上が「英語が楽しい!」と感じています

「英語は楽しいですか?」という質問に対して、箕面市の中学生は7割以上、小学生は8割以上が楽しいと回答し、ALTとの触れ合いなどを通じて、多くの子どもが「英語が楽しい!」と感じていることが分かりました。

英語が楽しいと感じている割合は、全国よりも高いですが、今後もより多くの子どもが、英語に触れることが「楽しい!」「大好き!」と感じられるような取り組みを進めます。



問い合わせ先
 子ども未来創造局 学校教育室
 電話 : 072-724-6761 (直通)